

令和3年春の叙勲・褒章において、弊社代表取締役社長 才田善之が藍綬褒章を受章し、2021年6月10日に交付されました。

藍綬褒章受章に関する詳細につきましては、下記の各掲載記事をご参照ください。

■ 2021年4月28日掲載 日刊建設工業新聞

日刊建設工業新聞

21年春の褒章

黄綬褒章に植木義明氏ら



才田善之氏



青博孝氏



平野良弘氏



植木義明氏



松田隆氏



藤田公康氏



金津任紀氏



徳岡浩二氏

政府は2021年春の褒章受章者を決定し、29日付で発令する。新型コロナウイルスの影響で受章者らが天皇陛下に会う拝謁(はいえつ)は見送られ、後日の皇居見学などを検討している。国土交通省は伝達式を中止する。建設業関係11団体が主催する褒章祝賀会も取りやめる。国交省は受け渡し方法などを検討している。

Ⅱ面に建設・不動産関係の受章者一覧

産業振興など公衆の利益に貢献した人に贈る藍綬褒章は、神奈川県電気工事工業組合理事長の青博孝氏(74)、日本砕石協会副会長の才田善之氏(62)らが受章する。

長年業務に精励した人が対象の黄綬褒章は新潟県建設業協会会長の植木義明氏(植木組社長、68)、長野県測量設計業協会会長の佐藤芳明氏(タイヨーエンジニアヤ社長、60)、群馬県測量設計業協会会長の嶋田大和氏(技研コンサル社長、59)、北海道建設業協会理事の平野良弘氏(元伊藤組土建社長、81)、プレストレスト・コンクリート建設業協会理事の藤田公康氏(極東興和社長、70)、兵庫県建設業協会会長の松田隆氏(松田組社長、67)、元富山県建築士事務所協会会長の堂田重明氏(元福見建築設計事務所代表取締役、71)、大阪府建築士会常任理事の徳岡浩二氏(徳岡設計社長、59)、日本海上起重技術協会理事の金津任紀氏(カナツ技建工業社長、74)らが贈られる。

2021年春の叙勲・褒章



日砕協 副会長 才田善之氏が藍綬褒章

2021年春の叙勲・褒章で日本砕石協会副会長の才田善之（さいた・よしゆき）氏が藍綬褒章を受章した。才田氏は「今回の受章は生まれてからこ

れまでたどった道程を振り返る良い機会になった。お取引先、社員あるいは家族、実に多くの人に支えられてきたことが思い出されるし、出会いやご縁がいかに大切かということが身に沁みてわかったような気がする。これまで頂いたご支援、ご協力に心から感謝を申し上げる。まだ道半ばの部分もあるのもう少しの期間は元気で頑張りたい」と話している。

才田氏は1958年11月生まれ。1

982年に旧才田組（福岡県朝倉市）に入社し97年に代表取締役副社長、2000年に代表取締役社長に就任。06年にサイタホールディングス、才田砕石工業、才田組の代表取締役社長に就任した。08年には福岡県砕石業協同組合理事長、日本砕石協会福岡県支部長に就任。2010年に同協会九州地方本部長、13年に同協会副会長に就任し現在に至る。

このほか鉾山保安業務の業務精励で大久保修香春鉾業資源事業部採鉾課課長、鶴原清重古手川産業採鉾部次長がそれぞれ黄綬褒章を受けた。

「良い時もあれば悪い時もある中で人との縁が全てだと思っ」。社員や取引先などを大切にしてきた氏の人柄を表すように本社の玄関通路には受章を祝う胡蝶蘭が多数寄せられていた。



才田善之氏

(一社)日本砕石協会副会長
サイタホールディングス(株)代表取締役社長

藍綬褒章を受章した

改定、「保安林解除」、「監督官庁との交流、連携」、「事務局の充実化、効率化」。

才田砕石工業(株)や(株)才田組のほか、環境・警備・乳酸菌事業会社、酒類事業会社などからなるサイタホールディングス(株)。令和5年には才田組の創業から100周年を迎える。世の中が目まぐるし

を凶っていく」。公共事業不要論など猛烈な逆風の中でかじ取りを担い、荒波を乗り越えてきた氏の気持ちに揺るぎはない。

新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るため、総会や会議、懇談が中止となり書面やWebで行われるケースが増えている。

受章を聞いた時、脳裏に浮かんだのは「母に伝えられて親孝行できたかな」との思い。

県、九州地区での取り組みが先進的事例となり、全国に広がったものもある。

く変わる時代において人口減少や担い手不足、市場の縮小など先行きに不透明感が漂う現状を「夢より不安の方が大きい」と吐露しながらも「企業の基盤である財務と信用をしっかりとした状態で次世代につなげ、継続

「人と会う機会が少なくなっている。良くない。人間のコミュニケーションは、フェイストフェイスが原則」との思いだが、感染拡大と「だからおじさん世代は…」の声も気になる。

平成21年、日砕協九州地方本部長に就任した際のインタビューで氏が掲げた課題は「軽油免税措置の延長」、「高い労災保険料率の

そのことを指摘するも「目の前にある一つの課題に対応してきただけ。それ以上のことはやっていない」と控え目な言葉。

日本大学理工学部土木科卒業、熊本大学大学院資源開発工学研究科修了。昭和33年11月生まれ、62歳。(藤原)

日本大学理工学部土木科卒業、熊本大学大学院資源開発工学研究科修了。昭和33年11月生まれ、62歳。(藤原)